



To acknowledge the duty that accompanies every right"
Affiliated with the International Association of Y's Men's Clubs

THE OSAKA CENTENNIAL

C/O OSAKA YMCA 1-5-6 TOSABORI, NISHIKU, OSAKA, JAPAN

2021年3月

No. **466**

Chartered
July 20, 1982

主題 Y's THEME (2020~21)

センテニアルクラブ会長 『共に考え、共に歩む、まずは地固め』
国際会長 『命の川を信じよう』
アジア太平洋地域会長 『変化をもたらそう』
西日本区理事 『Let's do it now!』
中西部部長 『ワイズの力を信じて、自ら行動しよう』

クラブ役員 Officers

会長 中村 茂高
副会長 三浦 直之
書記 大村 肇
ドライバー 大村 肇
会計 岡本 剛介
メネット担当 坂本 千春
YMCA連絡職員 長尾 聡

Biblical Message of March

見よ、わたしは新しいことを行う。今、それが芽生えている。あなたがたは、それを知らないのか。必ず、私は荒野に道を、荒地に川を設ける。

(イザヤ書43章19節)

歩きながら、ふと考えること

隅田 保

コロナ禍、仕事からも離れ、家に居ることが多いこの頃だけに体調管理にウォーキングは大事な仕事。今日は自宅ちかくの川西市萩原台の交差点をエネオスと三田屋を右に見て西へ住宅街の坂を早目に歩く。野球の古田捕手が卒業の川西明峰高校と宝塚医療大学を過ぎて南野坂、湯山台の街並みを抜けると「左満願寺へ」の標識があり思い切って左の山道を登り始めた。小さな流れに沿った風情ある遊歩道をは一はと踏み歩くとあっという間に愛宕原のゴルフコースに沿った道路に出てしまい満願寺の裏山で、高野山真言宗の古刹の境内を通り抜けるとバス停を見つけた。ここまで50分、スマホの歩数計は7000歩。歩きながら考えた、謝罪する森さんの辞任までのマスコミやネット上の追い込みは少々度が過ぎると思う。我々は裁判官か、世界も東洋人いや日本人だからこそ80を過ぎた老人をあそこ迄追い込んだと勘繰りたくなる。IOC次期会長は女性にしてもらいたいものである、と。

March Club Meeting 『JWF』

3月第1例会 (Web併用)

日 時: 2021年3月14日(日) 14:00~16:00
場 所: 大阪YMCA会館10F101号室チャペル
司 会: 中村 隆幸 君

1. 開会 中村 茂高 会長
2. ワイズソング 一同(ウクレレ)
3. 聖句朗読 石津 雅人 君
4. ゲスト・ビジター紹介 中村 茂高 会長
5. 強調月間 中村 隆幸 君
6. 入会式(藤井孝三氏) 司式: 中村 茂高 会長
7. 卓話「真相は隠される」
—メディア・リテラシーで究明を—
元毎日新聞編集委員・藤田 昭彦さん
8. 連絡・報告・ニュース 各メンバーから
9. お誕生日祝い 一同
10. 閉会 中村 茂高 会長
11. ハワイアロハ 一同

お誕生日

谷川メネット、藤井、松浦、花本の各メン

3月第2例会 (web)

日時: 2021年3月24日(水) 19:30~20:30
ZOOMによるweb会議です。

2月		種別	第1例会(web併用)	第2例会(web)	BFポイント	ニコニコ献金
在籍会員	17名	メン	7名	7名	2月 0g	2月 5,500円
例会出席	9名	メネット	2名	1名	現 金 0円	寄付2万円
うちメーキャップ	2名	ビジター	2名	0名	累 計	
出席率	64.7%	ゲスト	1名	0名	切 手 204g	累 計: 71,950円
		合計	12名	8名	現 金 0円	

今月の聖句

緊急事態宣言が3月1日に解除される事になりました。コロナ禍で皆さんはこの試練を克服して新しい生活様式を見出して切り抜けていこうと考えられたのではないのでしょうか。日常が戻ってくるにはあと少しの時間が必要かと思われませんが、主は「見よ、わたしは新しいことを行う」と教えられていますように、今までとは異なった日常になるかもしれませんね。

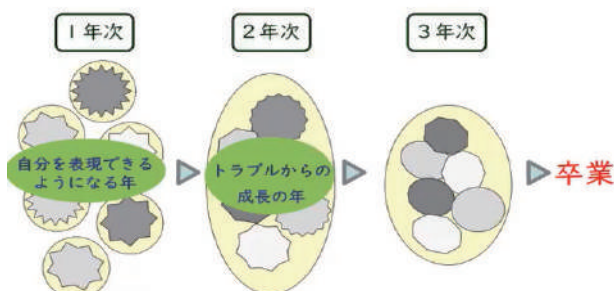
(聖句選/コメント:石津 雅人)

2月第1例会

春の陽気を感じる2月20日、大阪YMCA会館で、2月例会をオンライン併用で開催した。ゲスト、ピジターを含め12人が参加。今日の卓話は、大阪YMCA国際専門学校・表現コミュニケーション学科に通う生徒たちの様子を、当クラブの連絡主事の長尾聡さんに話をうかがった。表コミは、YMCA学院高校と技能連携を結び、卒業すると、専門学校高等課程の卒業資格と高校の卒業資格の2つが同時に取得できる。それによって進路の幅が広げられるようになるとのこと。ここに来る生徒は、人との関係や仲間づくりに悩んでいる生徒も多く、7割が不登校の経験を持ち、中には発達障害など障害のある子もいる。1学年30人、3学年で合計90人が学んでいる。1年次は30人の生徒が2クラスに分れ、2年次からは3クラスに分れる。1クラスに教師2人がつくなど手厚いケアが行われている。生徒たちには教科を教えるだけでなく、生活面のケアが大きな部分を占める。安心できる環境の下、生徒たちに次の目標を掲げている。1年次は自分を表現できるようになる。2年次は人間関係などさまざまなトラブルから成長する。3年次は互いを認め合うようになる。教師たちは、キリスト教の教えを基盤に、生徒に寄り添うことを大切にしている。私たちクラブは表コミの生徒たちを支援しているが、この卓話により、生徒たちのことをより深く理解することができた。

3月に入会式を迎える藤井孝三さんも、息子さんがYMCAの学校に在籍していた経験もあるなど、YMCAとのつながりに不思議な縁を感じた様子だった。

安心できる環境の中で・・・



2月第2例会 (WEB会議)

とき:2021年2月24日(水)19:30~21:30

出席:石津、大村、坂本哲、芝田、谷川、中村茂、山中秀、山中ち計8名

〈協議内容〉

- 2022年40周年事業について
来年、私たちのクラブは40周年事業を迎えるが、本来なら1年前から計画が必要。しかしこのコロナ禍、様子を見ながら進めることになる。
- ハワイ国際大会について
8月の大会の航空料金の高い時に行く必要もないのではという意見も。それ以外のシーズンで、比較的航空料金が安い時期の方がヌアヌクラブとよりよい交流ができるかも知れない。
- 今後の例会
4月10日(土)「グローバル時代の新しい高等教育」
長尾ひろみさんグローバルアカデミー代表
10階101号室チャペル



YMCAニュース

☆第329回早天祈禱会☆

日時…2021年3月19日(金)7:30~8:15

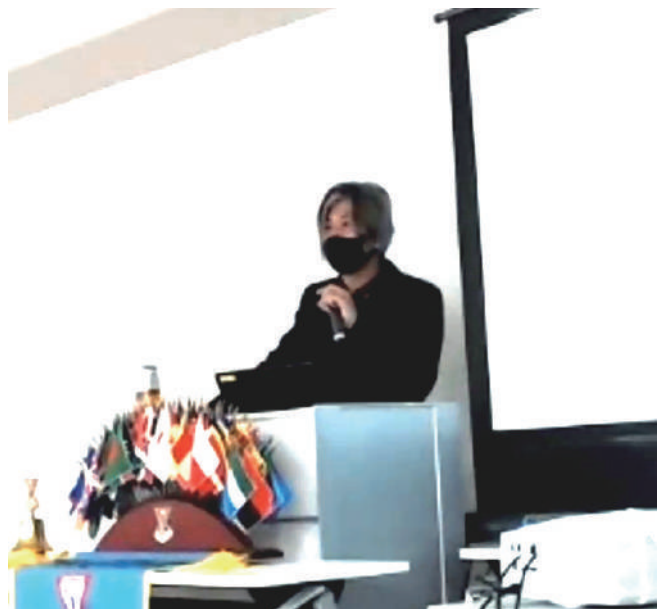
※朝食会は実施しません。

証し…古谷佳之さん

(大阪YMCA国際専門学校日本語学科学科長)

場所…大阪YMCA会館10階チャペル

(長尾 聡 TEL: 06-6441-0894)



長尾聡さん

GOING GLOBAL



トランプ前大統領と福音派 (要約) なぜトランプを選んだのか?

谷川 寛

トランプがホワイトハウスを去った。当時、在任中彼を支えた米国福音派キリスト教の存在が盛んに報じられたが、なぜ国家を分断するような言動を繰り返した人物を福音派が支持したのか、その背景を探った。

日本をはじめ、他の先進国は政治と宗教を分離する考え方が一般的だ。しかし米国はこの逆で、宗教が政治に関与することはむしろ奨励される。WASP (White, Anglo-Saxon, Protestant=白人でプロテスタント信仰を持つアングロサクソン系民族)と呼ばれる人々が、キリスト教信仰に基づいて国家建設のためアメリカ大陸に渡ってきた。そのため政治と宗教は親和性が高い。

人口の4分の1を超える信者を擁するプロテスタント最大の福音派。2016年の選挙では、この白人福音派の8割がトランプに投票したといわれる。多くは共和党支持者だ。遠く南北戦争(1860~1920年代)前後までは福音派はとても牧歌的であった。ところが政治と福音派が本格的に遭遇したのは、1976年大統領になったジミー・カーターの登場の時からだ。80年代には、「宗教右派」と呼ばれる福音派が、ロナルド・レーガンを後押しし、これ以降、共和党の支持母体となり、90年代にはブッシュ父子を応援した。

この宗教右派は、福音派の中ではむしろ少数派だが、自分たちの保守的な信仰理解と価値観を政治に反映させるために積極的に行動する。福音派はトランプを利用し、トランプも福音派を利用した。トランプが去っても、第二に、第三のトランプが生まれる素地がある。バイデンの大統領就任直前に起こった連邦議会への乱入騒ぎで、トランプの再選は厳しくなったが、バイデン新大統領の下、福音派がどのようにかわるのか注目される。



Club Activities

February, 2021

The February meeting was held both of in person and online at the YMCA Hall in Osaka on February 20th. Twelve people, including guests and visitors, participated. Mr. Satoru Nagao, our Related Secretary and a teacher of Osaka YMCA High School Hyogen-Communication course gave us a speech about the students.

The so-called "Hyo-comi" has a cooperation system with YMCA Gakuin High School, which enables its students to obtain two different diplomas; high school diplomas and upper secondary course diplomas. This gives them a wider range of career options after graduation.

Many of Hyo-comi students have had a hard time in making connections with people around them. 70% of them actually experienced a period of time where they did not go to school. Some students have disabilities such as developmental disabilities. A total of 90 students (30 students per grade) are studying at Hyo-comi. In the 10th grade (1st year in high school), 30 students are divided it into two homeroom classes. And from 11th grade, they are divided into three classes. The school provides generous care for students to feel comfortable, such as having two homeroom teachers for one class. The care provided for students is not only for their study but also (a lot more for) their daily lives. In the environment where they feel comfortable, students are encouraged to have goals according to their grade. In the first year, they are expected to express themselves. In the second year, they are expected to learn and glow up from the human relationship problems they have had so far. In the third year, they are expected to respect each other. By following the Christian principles, teachers are working hard to always be by their side. This speech gave us an opportunity to know more about the Hyo-comi students, who we have supported.

AKANE HANAMOTO





藤井 孝三

幼稚園児の頃の出来事からスタートしたと記憶する。自宅に蓄音機があり、やたら重いSP盤が沢山あったが、家族がそれを聴いている記憶はなく、当時の私のオモチャの一つだった。小学生の頃、兄や姉がよく聴いていたJAZZやPOPSに興味があり、小学校5年の時小遣いで初めてドーナツ盤(リトル・エヴァーのロコモーション)を買ひ、またラジオでPOPSをよく聴いた。中学2年生の時ビートルズ、高校生になりストーンズやビーチボーイズ、R&Bなどを聴き、ストーンズのコピーバンドでドラムを叩き、音楽漬けの日々だった。

そんな中、TVで、桃大ブルーグラスバンドが大学対抗決勝で日本一の栄冠を手にしたのを見た。その時バンジョーを弾いていたのが芝田光雄氏。当時ロック大好きの私には関心がなかったが、映画『俺たちに明日はない』のテーマ曲がラジオなどで使われるのを見て、次第にブルーグラスがインパクトをもつようになった。

1969年4月入学後、授業もそこそこに軽音楽部の門をたたき、無事入部が許された。この瞬間からブルーグラスバンド演奏歴が始まった。バンジョーを買いに梅田の楽器店に行った時、芝田先輩がたまたま社員でいた。卒業後、金融機関に就職した時、窓口に来たその芝田先輩に声をかけお付き合いが始まった。子育てが一段落し、バンドを再開し、芝田先輩が率いるバンドを始めとして、いろんなバンドと交流を深めている。音楽でしか自分を表現できないが、今後当会を皆様と共に盛り上げていく所存です。

真相は隠されるーメディア・リテラシーで究明を

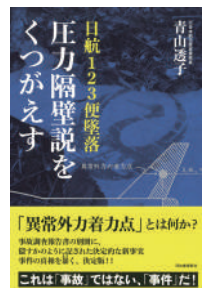
あなたはそれを信じるか？

元毎日新聞編集委員 藤田 昭彦

安倍晋三前首相が「桜を見る会」の前夜祭に関する疑惑で118回もウソの答弁をしていたことが衆議院調査局により明らかにされました。国権の最高機関である国会での虚偽答弁は、とりもなおさず主権者である国民を欺いていたわけです。果たしてこれまで政府は国民に真実を語っていたのでしょうか。マスコミは事実を報道していたのでしょうか。

私は新聞記者時代、事件記者を長く務め、晩年はYMCAの方々から国際交流に関する取材もしてきました。私にとってどうしても納得できない事件報道があります。1つは20年前の米同時多発テロです。当局の発表通り、アラブのテロ組織が単独であるような大規模な事件を起こせるのか。もう1つは36年前の日航機御巣鷹山墜落事故です。事故原因は公式には確定していますが、余りにも多くの疑問が残り、真相究明の出版が続いています。

「すべての政府は嘘をつく」という映画がありました。2つの事件を振り返り、どんなウソがあったか検証しましょう。正しい政治の実現には国民が騙されてはいけません。報道を鵜呑みにしないメディア・リテラシーと国際的な市民の連帯が必要ではないでしょうか。



保険の ちょっと いい話



保険には登場人物が3人。「契約者」・「被保険者」・「受取人」。この3人を誰にするかで税金の種類が異なります。例えば、契約者＝夫、被保険者＝夫、受取人＝妻の場合は受取った保険金は「相続税」の対象に。次に契約者＝夫、被保険者＝妻、受取人＝夫の場合は「所得税(一時)」の対象に。また契約者＝夫、被保険者＝妻、受取人＝子の場合は「贈与税」の対象となります。一般的に税金が優遇されるのは相続税で、逆に高いのは贈与税。受取の時点で相続税のつもりが贈与税になっていたら大変。一度この3人の登場人物を確認してみてください。

武田 善博

ニコニコ メッセージ NIKO NIKO MESSAGE

- 長尾先生のお話は、私の息子が15歳の頃、本校にお世話になった事を思い出しました。本校のシステムは、当時から感心しておりました。(藤井 孝三)
- 表コミの卓話をなつかしく聞かせていただきました。先生方が生徒一人一人を大切に考えておられることをお聞きして安心しました。これからもクラブとして支援していきたいものです。(石津 雅人)
- 長尾さんの「YMCAと表コミ」話、大変参考になりました。表コミの先生方ご苦労さまです。(谷川 寛)
- 表コミの事くわしく聞けてよかったです。居場所があるという事はとても大切だと思います。(坂本 千春)

後記

今月号も濃密な内容でした。いよいよ緊急事態宣言解除!

Shige

Going
Global

トランプ前大統領と米国福音派 なぜ政治にキリスト教がかかわるのか？

谷川 寛

異端の大統領だったトランプ氏がホワイトハウスを去りました。しかし、トランプ主義者と反トランプ主義者の対立が米国から直ちに消えるわけではありません。大統領在任中にトランプ氏を支えたアメリカ福音派キリスト教の存在が盛んに報じられました。同氏を後押し米国政治に大きな影響を与えた「福音派」というキリスト教勢力に関心をもちました。なぜ国家を分断するような言動を繰り返す人物をキリスト教一派である福音派が支持するのか、その背景を探りました。

「アメリカの福音派」を理解する当たりアメリカの福音派に関する研究で博士号を取得されたグレース宣教会牧師、青木保恵氏の著書「アメリカ福音派の歴史」を大いに参考にさせていただきました。まず理解すべきは日本の「政教分離」の概念が、アメリカには当てはまらないことです。日本では「政治に宗教を持ち込むことは許されない」と考えています。日本をはじめ他の先進国は、政治と宗教を分離する考え方が一般的です。アメリカはこの逆です。

アメリカでは宗教(キリスト教)が政治に関与することはむしろ奨励されています。WASP (White, Anglo-Saxon, Protestant=白人でプロテスタント信仰を持つアングロサクソン系民族)と呼ばれる人々が、キリスト教信仰に基づいて国家を建設するためアメリカ大陸に渡ってきました。そのため、政治と宗教は親和性が高いといえます。「福音派」は英語で「Evangelicals」と呼びます。一時期までWASP でないとアメリカの大統領になれない、と一般的に考えられていました。その殻を破ったのが J.F.Kennedy大統領でした。同氏はカトリックでした。

福音派に関するステレオ・タイプな理解は、およそ次のようなものです。米国のキリスト教徒の中でも、人口の4分の1を超える信者を擁するのがプロテスタント最大勢力の福音派です。聖書を字句の通り信ずる「Born Again」(信仰によって生まれ変わる)を強調、伝道に力を入れ、同性婚や人口妊娠中絶に反対します。2016年の選挙では、この白人福音派の8割がトランプ氏に投票したとされています。彼らの多くは共和党支持者です。

昔の南北戦争(1860-1920年代)前後までは福音派はとても牧歌的であり、国民のほとんどがWASPで構成されていました。当時は、福音派=プロテスタントでした。それ以後、アメリカはカトリックや、ヨーロッパの非WASP圏からの移民を受け入れました。それに伴い福音派も変容、膨れ上がり多様化しました。従来の自分たちの信仰とは異なる信仰を抱く人々をも受け入れ、プロテスタントの中の一大勢力となりました。また、日本を含む諸外国への宣教活動も熱心でした。

しかし、日本の多くの福音派教会は最初からアメリカの福音派と異なりました。個々人が神の前で罪を悔い改めて立ち返ることを重んじ、信仰を個人の問題と捉えました。社会の改善や福祉の充実にはあまり重きをおきませんでした。この点では、日本の政教分離の考え方も馴染み、米国とは異なる福音派が日本で形成されました。米国と日本の福音派は、ルーツは同じでも、異なる土壌に蒔かれた種であり、異なる花が咲いたといえます。

アメリカに話を戻します。アメリカの福音派の歴史で、その後、記憶の残る伝道者の代表格はBilly Grahamです。日本での宣教活動にも従事

し、大集会をおこなったことがあります。しかし、アメリカでもあまり政治活動には熱心でありませんでした。

アメリカで政治と福音派が本格的に遭遇するのは、1976年に大統領になったJimmy Carter氏の登場からです。福音派と称して、選挙に勝ちました。80年代には、「宗教右派」(後述)と呼ばれる政治化した福音派の人々が、Ronald Reagan氏を大統領にするための政治活動に加担し、これを成功させます。これ以降、宗教右派は「福音派」と称するのを好み始めます。そして、共和党の支持母体となり、90年代にはBush父子を応援しました。福音派が政治に積極的に関わることになります。

このような歴史からお分かりのように、福音派が政治的集団としての側面を見せる今日の姿と、一方で政治と距離置き聖書の言葉を身近に感じることに喜びを見出し、古き良き伝統を守りたい人々の集団があります。このような多様なグループを包含する非常に幅の広い宗派です。アメリカ福音同盟(NAE)が設立されています。2010年福音派の世界宣教大会が東京で開かれ、アメリカの代表が日本で原爆投下をした罪を公に謝罪しました。

アメリカには、福音派以外にリベラル派も存在します。かれらも政治活動を行います。しかし、次に述べる福音派の「宗教右派」程には組織化された運動を展開していません。

現在の福音派として目立つのは、先に述べた「宗教右派」(Religious right)としての姿です。この宗教右派の人々は、福音派のなかでむしろ少数派ですが、自分たちの保守的な信仰理解と

価値観を政治に反映させるために積極的に行動する人々です。トランプ氏を支えた集団でもあります。一方、聖書を人生の指図書と受け止めている圧倒的多数のキリスト教保守派の人々がおりますが、彼らはあまり目立ちません。両者とも中絶も同性愛も聖書の原則に反するという考え方では、福音派として一致しています。このなかの保守派にとっては、たとえトランプ氏を好ましくない人物と考えても、彼らの要求を政治的に実現してくれる人物なら、その人を支持します。福音派はトランプ氏を利用し、トランプ氏も福音派を利用したといえます。これからも政治的な要求を実現させるため、次回の大統領選挙にも積極的に関わるとでしょう。従って、トランプ氏が去っても、第二に、第三のトランプ氏を生み出す素地があります。

トランプ氏は去るにあたり含みをもった発言をしていました。次の2024年の選挙を考えての発言のようです。現在の共和党はトランプ党と言われるほど、彼の影響力は大きくなっています。次回も共和党からの推薦は確実と氏はみていたようです。しかし、今年のバイデン新大統領の就任式の直前に起こった連邦議会への乱入騒ぎで、トランプ氏が、これを扇動したとみなされ弾劾裁判にまで発展する騒ぎとなりました。これは大きな汚点となり、同氏の再選の可能性は厳しくなりました。

アメリカは今後バイデン新大統領の下で、「分断」(Disruptions)されたこの国を、いかにして「一致」(Unity)を生み出していかかが、次の大きなテーマです。厳しい道のりです。そこに福音派がどのような関わり方をするのか注目に値します。アメリカが「神の国」である以上避けて通れません。

以上

